



# ぶどうのささやき

22号

2016年  
7月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

## “現場力”の再認識で中小製造業の活路が開ける

先日、横須賀市内のある中小企業の工場を訪問したとき、1トン以上もある大きな金属の部品をクレーンで吊る玉掛け作業を行っていました。70歳前後とおぼしき工員の方が、大きなワークに慎重にワイヤを掛けています。工場長がおっしゃるには、「彼には誰もかなわないんだよ。」とのこと。玉掛け作業自体は珍しいものではありませんが、その工場ではとくに大きな部品を扱うことが多いため、正確で、しかも動きに無駄がない熟練工の玉掛け作業は必要不可欠とのことでした。

それを見て、改めて日本の「ものづくり」の基盤を支えてきた“現場力”の強さを感じるとともに、健康で技能があれば定年を超えても働く場があることの意義、そしてこのような技能を継承する取り組みの大切さに思い至りました。

この工場では20～30歳代の若い従業員も多くいるため、時間をかけて今後の技能伝承を進めていくことが期待できます。しかし、小規模な工場では若者の製造業離れもあって、最も若い人でも50歳前後の人しかおらず、属人的な技能を継承する人材自体が不在というところが多いのも事実です。

日本全体で見ると、長期的に工場数は中小企業を中心に減っていくでしょうし、ICT産業をはじめとするサービス業の成長に対して、全産業に占める製造業の割合が縮小していく傾向をとどめることはできないでしょう。そうした傾向の中で、製造業者としては、他の企業の追随を許さない高度な加工技術や製品を持っていれば別ですが、全ての中小企業が「オンリーワン企業」を目指すことは難しいでしょう。

しかし、打開策はあります。それは、目立った技術は無くとも、長年にわたって培われてきたそれぞれの企業の“現場力”を改めて自覚し、さらに磨きをかけ、それを若い世代に成長の場として提供することを経営者が意識して指し示すこと。それによって、生き残ることが可能となります

(公財)横須賀市産業振興財団  
常務理事兼事務局長 堀込 孝繁



し、こうした企業が幅広い加工分野で地域に多く立地していることが、雇用を含めて層の厚い経済基盤になるでしょう。

既にこうした意識改革を社長が行い、取り組んでいる企業も少なからずあります。その方法はさまざまで、例えば受注が少ない時に電気自動車をありあわせの部材で組み立て、構内で走らせることで設計と加工の実習の場としていたり、自社のリタイアした熟練技能者を講師として招いて設計図の無い修理部品の加工を実地に追体験させるところ、使わなくなった旧式の旋盤を廃棄せずに、数値制御に頼らない教育用の設備として活用しているところなど、その工場の現場に応じた工夫がなされています。

このように従業員の成長を促す工場では、若い人材の定着率が高くなります。製造業では賃金を高くすることは採算上難しいですし、仮に高めに設定しても定着率が高まるわけではありません。

経営者の意識が変われば従業員の意識も変わります。そして、こうした企業が「ものづくり補助金」や「雇用調整助成金」など、公的な支援策を活用すると効果が高まります。

私が籍を置いている(公財)横須賀市産業振興財団では、産業クラスター研究会と連携させていただいて、セミナーや個別企業支援などを行うことにより、少しでも企業経営のお役に立ちたいと願っています。産業クラスター研究会の皆様方の経験と知恵が、中小製造業の“現場力”の再認識の契機となることを願っています。

## クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーターが著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。

## 平成28年度活動方針について

平成27年度は設立12周年を迎え、支援事業部会が順調な活動実績を上げ、年間収支も黒字で締めることができました。関係各位の絶大なご支援、ご協力の賜物と御礼申し上げます。

さて、本年4月に公表された経済産業省の「産業クラスター第Ⅱ期中期計画」によれば、激化する国際競争下で地域産業活性化のため、地域の産業資源等を活用することが不可欠で、中小企業、大学及び公的機関との水平ネットワークの形成・拡大がより重要とあります。

当会としては認定NPO法人として、地域経済・産業の活性化に寄与しつつ法人会員の支援要請に答え、また一般市民や地域企業へのサービス提供に一層努力するものです。

平成28年度は上記基本構想に従い具体的には下記の具体策に取り組む所存です。

### (1) 支援企業の拡充と活動地域の拡大

現在の三浦半島地域を主体とした活動地域を横浜市金沢区から市内全域に拡大し再整備した支援メニューをもとに充実した活動を進める。

### (2) 地域社会へのエコ啓蒙

横浜市金沢区で行っていた小学校児童へのエコ教育を横須賀市でも実施して児童に興味を持ってもらう。更に教育委員会等の協力のもとに小中学校へのエコ教育に対し

理事長 木下 武



での啓蒙活動を推進する。

### (3) 認定NPOの継続

今年度更新時を迎えた認定NPOを継続すべく活動分野の拡大と会の組織の充実を図り、新しい公共支援、産官学支援等の事業の促進を図る。

### (4) 行政、大学・NPOなどからの業務委託契約の獲得と拡大

現在、横浜市立大学からの委託事業の充実と拡大を進めると共に、地域の大学や公官庁の委託事業を検索して事業拡大に努める。

### (5) PR活動の拡大・・・法人・個人の会員拡大

ホームページ、会報誌を通して当会の活動をPRしているが更に充実した活動を行い地域住民の理解を得て、法人並びに個人会員の参加拡大を図る。

### (6) 他団体との関係拡大

商工会議所、他のNPO法人との連携を図り相互協力をして事業推進を図ると共に会内部の交流親睦を図る。当会会員の交流会の開催や情報交換を行い、囲碁将棋、ゴルフ、音楽〈コーラス、CD鑑賞〉等の趣味を楽しみながらシニアが参加できる試みを進める。

## 【歳時記】 ウォーキング

二〇一〇年に、脳梗塞を経験した私ですが、それ以来一日一万歩を目標としてウォーキングをしています。

雨にも負けず、風にも負けず、雨の時にはカッパをまとい、あるいはプールの中で水をかき分け、日照りの夏は、セミの声を聞きながら日陰を求めておろおろ歩く。頑張れ 頑張れ・・・そんな毎日でしたが・・・

今年の四月は腰痛がひどく、平均一万歩の目標を達成できませんでした。それが、それ以外の月は、目標を達成しています。この頃そんな自分を誉めてあげたいと思いはじめました。

我が家（京浜急行堀ノ内駅の近く）を起点に、私の足で一万歩とは、「馬堀の堤防の東端までの往復」「平成町方向へ向かえば、ノジマのビルまでの往復」「衣笠方面では横須賀高校までの往復」という程度で、距離とすれば六キロ弱ぐらいでしょう。プールでは一万歩の代わりに三千メートル歩いていきます。（プールの三千メートルは、九千歩として計算しています）。

頑張っていると思う自分でしたが、残念ながら体重という面での成果は全く出ていません。

小生の体重は、現在一〇七キロと超メタボ。この程度の歩きではダメということでしょう。歩き方にも問題があるようです。そこで、歩行強度計というものを買い求めました。これによると、中程度の強度の歩きを二十分程いれば、一日の歩数は八千歩で良いと書かれています。

しかし、この補強強度計でカウントされる中程度の強度というのは、かなり厳しく、一日二十分というノルマを達成することはかなりの努力が求められます。

歩くということ以外に、最も大切なことは生活態度を変えるということでしょう。小生の肥満の原因は、酒と甘味好きということでしょう。それを克服するため「成人病研究所付属病院」に二週間入院する決意をしました。二週間の入院で、「生活態度」や「超メタボ」がどの様に改善することができるか、その後、リバウンドしないか、楽しみです。

孫に恥じないように頑張るつもりです。（俊）



株式会社大倉物産の宮崎正男氏（84 歳）、社長辞任・会長就任、50 年間の環境事業推進活動で横浜環境活動賞「実践賞」を受賞、今後は「環境と防災」活動や私塾「喜働塾」運営に専念。

その宮崎さんに 5 月某日、50 年に及ぶ企業人人生と今後について思いのたけを語っていただきました。

（インタビュアー・広報部会 平野 和夫）

宮崎さんは 1966 年資本金 400 万円で大倉物産を設立、以来 50 年の長きにわたり経営トップにあり、「自然と人を大切にする」を基本方針にすえた環境事業会社に育て上げました。これが高く評価され、「第 23 回横浜環境活動賞」の「実践賞」を受賞、6 月 14 日、横浜市長公舎で平原副市長から表彰状を授与されました。



「年輪型長寿企業の四方よしの経営理念実践」と宮崎会長

エコアクション 21 取得、横浜型地域貢献企業取得、神奈川県経営革新承認と、2000 年代に入ってから活動は目覚ましく、次々と時代を先取りする新規路線にチャレンジ、成功させました。長年にわたり環境省が推進するエコアクション 21 に取り組み、地球と地域の環境保全に貢献したことに対し、昨年「一般財団法人持続性推進機構」から感謝状を頂きました。宮崎さんは「横浜に住み始めた昭和 20 年代は、市内の川はごみの川の状態、車はどこでもアイドリングをし、運転手は飲み物の缶、ごみをポイ捨てる、とても汚い町でした」と、清潔な町に変えたいとの思いが後に環境に特化した企業設立の原点になったと振り返りました。

環境活動以外にも「年輪型長寿企業の四方よしの経営理念実践」と「小学校へのエコ出前授業」があります。宮崎さんが提唱するのは「三方よし」ならぬ「四方よし」。「売り手（社員）」「買い手（顧客）」「世間」の三方に「自然」を加え、四方に良い会社を目指します。宮崎さんは「四方よし」について「企業は積徳に務め、法律を守り、倫

理的な商品やサービスを提供し、従業員が働きやすい環境を作り、消費者の立ち場に立った業を行い、また地域社会に貢献し、さらに自然環境に配慮した活動をしなければならない」と解説しました。

宮崎さんは当会と協働し、横浜市金沢区の金沢小学校で省エネの大切さを教える出前授業を実施し、この活動は金沢区から表彰される栄誉に輝きました。更に今年は横須賀市立城北小学校でも実施、ソーラーパワーで動く虫のおもちゃを導入した授業や大型 LED ライトの点灯はこどもたちの圧倒的な人気を獲得しました。今後も「こどもの「なぜ」「好奇心」を引き出していきたい」と抱負を語りました。

今後は社長業を引退し、環境と防災をキーワードにした活動と私塾「喜働塾」の運営を行っていくという宮崎さん。とくに私塾「喜働塾」については、すでに若者一人を社会で十分通用していく経営者に育てるべく育成中。「好奇心の強い「好奇高齢者」として、少しでも世間に貢献できれば」と話しました。この日もお顔の艶もよく、言語明瞭、ピンと伸ばした背筋からはとてもお年には見えず、その元気で今後も我々後輩を引っ張って行ってください。



平原副市長から表彰状を受ける宮崎会長

### 株式会社 大倉物産

〒236-0003 横浜市金沢区幸浦 2-22-7

(電話) 045-785-2111

(FAX) 045-785-2115

ホームページ : <http://kkokura.co.jp/>



## 歴史散歩

### 鶯のホーホケキョへの道 その2

個人会員 新井 全勝

鶯の美声を妙文などと形容あるいは比喩する時代から、ホケキョ、ホーホケキョと聞きなす時代へと歩を進めます。

#### ホケキョ（法華経）の聞きなし

鶯の鳴き声を仏教の法華経に掛けて聞きなすのは、室町時代末期だという説がありますが、中期まで遡れそうです。『日向民話集』に「梅の花散るを惜しむな鶯の経は実となる南無や法華経」という和歌があります。大蛇の祟りを鎮めるために、自ら人柱となる長千代丸という少年が辞世の句として詠んだもの。祠には正長元（1428）年2月27日の日付が見られます。

一方、京都では法華経の浸透が進みます。日蓮の孫弟子の日像が妙顕寺を京都に建立し、後醍醐天皇から1334年に勅願寺とすることを許されると、京都の町には法華宗の寺が次々と建立され、洛中に本山だけで21ヶ寺を数えるまでに拡大し、京都は「題目の巷」と呼ばれるほど町の至る所で「南無妙法蓮華経」の題目が唱えられます。「題目の巷」と呼ばれたのは応仁・文明の乱（1467～77）前後（ホームページ「フィールド・ミュージアム京都」天文法華の乱）。

辞世の句の「南無や法華経」は法華宗の題目から取られたものと思われ、辞世の1428年は洛中法華21ヶ寺に拡大途次。京都の町に法華宗が浸透していく過程で、ホケキョ（法華経）の聞きなしが始まったものと思われま

#### ほうほききよ（法を聞きよ）とは

浄土真宗本願寺中興の祖といわれる蓮如は、明応8年（1499）3月に高弟に辞世の句を残していますが、その際に鶯が「ほうほききよ」と鳴いている（『蓮如上人・空善聞書』）、といひます。当時、僧は僧兵になり戦に明け暮れ、仏法をないがしろにしていたため、鶯が「法を聞きよ」と言っていると戒めた言葉です。

#### ホーホケキョの聞きなしと多様化

いよいよホーホケキョの聞きなしですが、蓮如が残した「ほう」の言葉には複数の意味があり、ホーホケキョの聞きなしは多様化し、あるいは重層化していきます。

##### (1) 声も尊しほふほけ経

細川幽斎は戦国時代から江戸時代にかけての武将・大名・歌人。歌道の師匠である三条西実枝が、ある年の正月に法会を催し、前日から翌朝まで読経を行っていると、

鶯の初音が聞こえてきます。「これは特別なウグイスの初音ですね！」と幽斎が言うと、実枝は「いいや？ 昨日も聞いたよ」と応えます。

そこで幽斎が当意即妙に詠んだのが、「きのふよりけさかけて啼くウグイスの声も尊しほふほけ経」の和歌。この記事は、ホームページ「戦国ちょっといい話」にあります。出典文献は不明。確かとみれば、実枝の薨去が天正7年（1579）1月ということから、ホーホケキョの最初の聞きなしとなります。「ほふ」は驚嘆の声とも感嘆の声とも受け取れ重層的

##### (2) ホウホケ経の朝づとめ

「うぐひすのホウホケ経の朝づとめ」。江戸時代初期の俳人、松江重頼が1633年に発行した俳諧集『犬子集』にあります。

1633年は鎖国令が発令された年。キリシタン禁制が実施され、併せて仏教の檀家制度が進められます。今まで僧兵として戦に明け暮れていた僧侶が、仏法に従い法華経の読経という朝勤めをしている、その様子を鶯に託して風刺したもの。当然の光景と思えますが、時代の変化をしっかりと捉えています。「ホウ」は仏・法・僧の法（仏の教え）。「法法華経」の漢字を当てた鳴き声はここから生れたものと思われま

##### (3) ほう法華経にしくものぞなき

「慈悲心も仏法僧も一声のほう法華経にしくものぞなき」（蜀山人『蜀山百首』）。江戸時代後期の化政文化期に現れた狂歌。慈悲心はジューイチという鳥の聞きなし、仏法僧はコノハズクの聞きなし。これらの鳥は仏教の3霊鳥といわれますが、高く澄んだ陽気な美声、鶯の一声に勝るものはないようです。「ほう」には特別な意味はなく、単に鳴き声を写したものと思われま

#### おわりに

「鶯の声には誰もほれけ経」（『毛吹草』）は江戸時代初期の俳諧。「ほれけ経」は法華経と「ほれる」の掛詞。鶯が賞玩された様子をよく捉えており、ホーホケキョへの道は、古代から今に至るまで連綿として続いています。

今回、新たに見つかった事実を含め、鶯がホーホケキョへの道を歩んだ過程の体系化を試みましたが、こうして見ると、鶯の鳴き声の変化は、社会や仏教の変遷期に起きており、強い動機があったことが伺えます。鶯は、さらに明治維新の洗礼も受けますが、それは別の機会に譲ります。

## 部会活動紹介

## 「いまさら聞けない」EXCEL / WORD 教室開催にあたって

企業支援事業部会 部会長 片平 梯一

## オフィスソフトの解かりにくさの背景について



ワープロ、表計算、グラフ作成が3種の神器として、パソコンに搭載され、パソコン成長の原動力として、またオフィスの生産性向上の有用なツールとして活躍してきました。1980年頃には、パソコンだけでなく、ミニコン、オフコン、汎用小型機などにも、各社の独自ソフトが搭載されていました。そして、3種のソフトの連携・統合化の機運が起り、ある意味では使い易くなったが、機能重複によって解かりにくくなってきました。さらに、コマンド操作ベースからマウス操作ベースへと進化した EXCEL が登場し、またパソコンが大型機などの端末として使えるようになったとき、Microsoft Office だけが生き残ることになり、このことは、パソコン間でのデータの流通性、操作の共通性というメリットを生み出しましたが、ますます多くの多様な要望に応えなければならぬという義務が生じたものと思われます。

なかでも「EXCEL」「WORD」は、ビジネスだけではなく、一般の家庭に入り込み、宛名の自動印刷、手紙の作成、町内の連絡、運動会のポスター作成、果ては幼稚園では、お母さん方が手作りのバザー広告まで製作しています。Microsoft Office は改良を重ね今や office 2016 にまで変化してきています。新たな機能が追加され、便利になるのは大変に喜ばしいことではありますが、Web サービスの影響なども受け、今や使い方が変化しており、その新たな使用方法に対応して改良されたのでは、古くから使っている者にとってはかえって不便やおせっかいすぎると感じているのが本音ではないでしょうか？

ビジネスの第一線で活躍している Office2016 は、各自使用

者により使い易くカスタマイズされているのが現状です。

## EXCEL / WORD 教室開催の動機

先般、「エクセル」が壊れた、助けて！！と電話が入りました。社内で送られてきた EXCEL のデータの一部を手直ししたら、表全体が「# NAME?」に変わってしまった、どこを手直ししたのかもわからなくなったとのこと。多分送られてきた資料には種々の計算式やマクロが埋め込まれていたものと思われます。幸い、最新の EXCEL には「元に戻す」機能が無限に作動するので事なきを得ましたが、新たな機能を理解しないで、いやそれどころかそんな機能が追加されているのを知らずに作業してしまうと大変なことになることがあります。

売上の集計から住所録の整理、請求書等の書類作成までこなす有用なツール EXCEL ですが、有効に活用しようとすれば、前述の「分からない、困った、助けて」という直接的な問題に限らず、いろいろな問題、たとえば

- (1) 機能やショートカットボタンの使い方などを忘れてしまった。
  - (2) 持っている機能を有効に活用してもっと楽に作業をしたい。
  - (3) 目的に合った機能を適材適所に使いたいが、多機能過ぎて選択に迷う。
  - (4) バージョンアップをしても以前と同じように使いたい。
- などの問題に出会うだろうと思います。

EXCEL を中心に WORD を含めて、そのような今更聞けない、あるいは聞きにくい基本を理解し、補完していただく教室の開催です。実務で実際に困っている方々、予防を考えている方々への教室です。参加をお待ちしております。

## 事務局からのお知らせ

- ① 平成 28 年 2 月 6 日 経営者交流会（新春の集い）を開催。千賀名誉教授（横浜市立大学 名誉教授）による講話「市民社会のいま」のほか宮崎社長（(株)大倉物産）と金子理事にお話いただき活発に議論をしました。
- ② 平成 28 年 2 月 18 日 神奈川県横須賀三浦地域県政総合センターのご後援を得て、「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進月間」事業としてセミナー「見せよう！ 中小企業の力」を開催しました。セミナーの後は参加者の交流を行いました。時間が大幅に超過するほど盛況となりました。
- ③ 平成 28 年 3 月 30 日、平成 27 年度第 3 回理事会を開催し平成 28 年度の活動方針を審議、決定しました。また、平成 28 年 4 月 28 日には平成 28 年度第 1 回理事会を開催し平成 27 年度の活動報告及び決算承認と平成 28 年度活動計画案及び活動予算案を審議、決定しました。
- ④ 5 月 12 日 産業交流プラザにおいて平成 28 年度通常総会を開催し、平成 27 年度の活動報告と活動実績の承認、また各部会長による平成 28 年度の活動内容と活動予算の提案・承認を行い滞りなく終了しました。そのあとささやかに懇親会を行いました。
- ⑤ 6 月 19 日 会員相互の親睦のため横須賀菖蒲園（衣笠）にて菖蒲鑑賞と散策の集いを行い多数の会員の皆さんが参加しました。菖蒲園の後はピーチグリーンにて懇親会を行い、会員による講話「三浦半島の活断層」で盛り上がりました。  
(事務局 佐々木 興吉)

## トピックス

## 横須賀市立城北小学校で「エコ教育」を始める

当会の法人会員、(株)ハイ測器の本田社長のお孫さんが同小学校に通っている関係でエコ教育授業が実現しました。一昨年横浜市金沢区の金沢小学校でエコ教育を継続して実施、金沢区から表彰されてから横須賀では初めての試みです。

1日目は2月8日(月)5年2組の児童を対象に阿部副理事長が「エネルギーを大切に使おうね」、金子理事が「教室内の照度測定」そして法人会員の(株)大倉物産の吉川さんが「LEDの実物の展示とおもちゃによる太陽光発電」と、それぞれの学習を行いました。教室内の各自の机上の照度を児童と一緒に測定し、窓側の蛍光灯一列を消灯するだけで電気使用量が年間76,800円、二酸化炭素排出量1,524(kg-CO<sub>2</sub>/kwh)が削減されることがわかりました。

又、児童達はLEDの構造や形を見て、点灯してその明るさにビックリしたり、おもちゃによる太陽光発電ではソーラー模型のバッチ型キットが人気を呼び、約1時間の授業であったが質問や驚きの声が沢山でていたのが印象的でした。

2日目は2月25日(木)同校の体育館で「総合学習会」が行われました。内容は自然・環境について来場者を楽しんで知ってもらうことです。各種電球の実物展示ではLEDや各種電球の実演と教室内の照度測定結果をわかり易く掲示し児童が説明、屋外では太陽のもとソーラーのバッチが5匹コマカルに動き回るのを父兄・児童たちが手に取り、方向を変え興味深く遊んでいました。

後日、担任の先生が、「一生懸命に自分たちの学習に協力してくださったのはなぜだろうとつぶやく子がいた」と伝えてくれました。この気付きが「人のために…」という心も育ててくれるのではと思います。たくさんのことを勉強させていただきましたというお礼の言葉など、児童ひとりひとりの声感想文として頂き、深く感激し感銘しました。

(環境事業部会副部長 金子 賢一)



## 75歳・現役最高齢広報専門家がマスコミ生活51年を振り返る 横須賀市倫理法人会にて講演

私は新聞社・PR会社で新聞・雑誌編集・広告営業・広報支援を体験、現在も当会をはじめNPO、中小企業向けの広報支援活動を続けています。横須賀市倫理法人会からご依頼があり、6月7日6時30分から経営者モーニングセミナーで、その体験の一端をお話しました。

1965年、新聞社に入社直後担当したのは都内大手町・経団連会館にある電力(現エネルギー)記者クラブに常駐し、原子力・石油などエネルギー産業全体を取材することでした。当時、勃興期にあった原子力のことなどよくわからない私も、必死に取材、多くの原稿を作成しました。それが、2011年3月11日、東日本大震災発生とそれに伴う東電福島原発1号機爆発により原子力安全神話はもろくも崩壊しました。私を含む当時のマスコミ報道は何だっただろう。今翻って内心忸怩たる思いです。

昭和天皇崩御(1989年1月7日)と米国同時多発テロ(2011年9月11日)も忘れられません。この時は編集を離れ、営業局にいました。半年前からご容態は緊迫の度合いが日ごとに強まってきました。そして迎えた運命の1月7日

(土)午前7時55分、当時の小淵官房長官が「6時33分崩御」の事実を記者発表しました。改めて昭和を長く生きた者として、昭和天皇崩御に複雑な思いに駆られたことを覚えています。もうひとつ、同時多発テロについては、当日夜10時過ぎ、会社のテレビにくぎ付けになり、二日間会社に泊まりました。編集時代は当然ながら、営業でも販売でも、新聞社は常にニュースとの接点で動いており、その意味では刺激的で面白い職場でした。

今後は認定NPOの一員として、広報活動を通じた地域貢献を重点的に実行していきたい、横須賀、三浦、横浜の中小・小規模企業などの情報を広く世間に発信していきたい、と話しました。

(広報部会 平野 和夫)



発行：特定非営利活動法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax : 046-847-6355 E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所/〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号

連絡先 : 046-847-6355 E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：木下 武